

平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	教育実習 (Teaching Practice)		授業コード	K000552
担当教員名	藪内 聡和		科目ナンバリングコード	K40801
配当学年	3	開講期	後期	
必修・選択区分	教職必修	単位数	3	
履修上の注意または履修条件	教育実習に参加するためには、この事前指導は欠かせません。4年次前期の教育実習事前指導受講条件は、3年次後期の事前指導の出席条件を満たしていることです。更に、教育実習に参加するためには、この4年次前期の事前指導出席条件を満たしていることです。			
受講心得	模擬授業や講義内容に関して積極的に意見交換できる態度が必要です。 また、社会参画入門で既に学習したスタディ・スキル、ノート・テイキングの手法を大いに活用してください。			
教科書	『教育実習の常識』教育実習を考える会、蒼丘書林。			
参考文献及び指定図書	講義中に適宜指示します。			
関連科目	教職課程における全ての講義。			

授業の目的	<p>教育実習では、学校に教育実習生として勤務し、教員の職務の一部を担当するなど実際に教師としての指導を行います。</p> <p>また、教育実習は大学で学んだことを学校現場でその理論や方法を実証的に検証する場でもあります。教育は生徒の人格の形成に大きな影響を及ぼすことから、教職課程の総仕上げとしての教育実習に対しては周到な準備が義務づけられています。</p> <p>3年次後期はこの事前準備、4年次前期はさらに事前準備と教育実習を行います。実習後はその経験を振り返るとともに、教職課程での学習を更に深化することが重要です。</p> <p>この講義では、教育実習の意義や教育実習の心得を学びます。また、学習指導案作成演習や模擬授業等を行い、教員としての気概を高めるとともに、資質能力の向上を目指します。従って、大学で学んだ一般教養、専門教養等を教育実習の場で理論や教育方法等を実証的に検証する場でもあります。</p>
授業の概要	教育実習事前・事後指導

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：ガイダンス 授業の進め方、教育実習の予定等を説明し、役割分担決めます。	
第2週：模擬授業 学習指導案を用いての模擬授業を各自が行います。それを参加者で批評、研究協議の後、模擬授業の深化を図ります。	学習指導案作成・模擬授業の反省提出
第3週：模擬授業 学習指導案を用いての模擬授業を各自が行います。それを参加者で批評、研究協議の後、模擬授業の深化を図ります。	学習指導案作成・模擬授業の反省提出
第4週：模擬授業 学習指導案を用いての模擬授業を各自が行います。それを参加者で批評、研究協議の後、模擬授業の深化を図ります。	学習指導案作成・模擬授業の反省提出

第5週：模擬授業		
学習指導案を用いての模擬授業を各自が行います。それを参加者で批評、研究協議の後、模擬授業の深化を図ります。		学習指導案作成・模擬授業の反省提出
第6週：模擬授業		
学習指導案を用いての模擬授業を各自が行います。それを参加者で批評、研究協議の後、模擬授業の深化を図ります。		学習指導案作成・模擬授業の反省提出
第7週：模擬授業		
学習指導案を用いての模擬授業を各自が行います。それを参加者で批評、研究協議の後、模擬授業の深化を図ります。		学習指導案作成・模擬授業の反省提出
第8週：模擬授業		
学習指導案を用いての模擬授業を各自が行います。それを参加者で批評、研究協議の後、模擬授業の深化を図ります。		学習指導案作成・模擬授業の反省提出
第9週：模擬授業		
学習指導案を用いての模擬授業を各自が行います。それを参加者で批評、研究協議の後、模擬授業の深化を図ります。		学習指導案作成・模擬授業の反省提出
第10週：教育実習の心得		
実際の教育実習日誌をもとに、実習の毎日の証となる教育実習日誌の意義、記入の仕方、活用の仕方等について学習します。		教育実習の準備
第11週：教育実習の心得		
学校での生活は生徒にとってかけがえのないものであり、二度と取り返しのつかないものです。このことを実習生は自覚して実習に当たらねばなりません。そこでこの講義では、人間として、教育者として、また実習生として心得ねばならない事項について学びます。		教育実習の準備
第12週：教育実習の心得		
教員としての使命感、また守秘義務や信用失墜行為防止のため、教職課程で学習してきた法令等にふれるとともに、その趣旨を十分認識できるよう講義します。		教育実習の準備
第13週：教育実習の心得		
教育実習の現場となる学校という仕組みと組織及び教員の職務について学びます。また、実習前、実習後の実習校との関わりの在り方について学びます。		教育実習の準備
第14週：教育実習の心得		
授業参観や授業実習後の反省などの際の注目点、参観の視点、授業実践の視点等について学習します。また、学級担任としての実習にも対応できるよう、その在り方等について学習します。		教育実習の準備
第15週：教育実習報告会		
教育実習の報告・反省を行い、大学で学んだ教職課程の理解を深めます。		教育実習の反省
第16週：教育実習報告会		
教育実習の報告・反省を行い、大学で学んだ教職課程の理解を深めます。		教育実習の反省
第17週：教育実習報告会		
教育実習の報告・反省を行い、大学で学んだ教職課程の理解を深めます。		教育実習の反省
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	教職の使命感を再確認できる。
【知識・理解】	教育実習で求められる知識を習得する。
【技能・表現・コミュニケーション】	円滑に授業ができる。
【思考・判断・創造】	学習指導案が書ける。

○成績評価基準(合計100点)		合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	15点
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		10点	15点
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点	15点
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10点	15点

(「人間力」について)
 ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	
発表・その他(無形成果)	教育実習校で出される評価を重視します。